

日本政治学会 会報

The JPSA News

No. 4

October 1982

ご あ い さ つ

升 味 準之輔

このたび日本政治学会理事長に推挙されまして、光栄に存じております。会員諸氏のご協力によって、できるだけの努力をいたすつもりであります。大いに奮闘しますと申したいところですが、まだなにができるかわからない状態ですから、このように微温的なことを申すのであります。

ところで、前理事会は、日本政治学会として未曾有の事業をおこなわれました。世界政治学会ラウンド・テーブルのような大事業を成功させる力が当学会にあるかどうかはなはだあやぶまれ、じっさいあやや崩落と思われる事態も時にあったとかきいています。しかし、結果は上出来で、内外ともに好評のようであります。当学会にこのような活力があるとは、まったくおどろきであります。とくに資金については、集まるかどうか薄氷を踏む思いでありましたが、会員諸氏と諸団体のご協力で意外にも黒字となり、これも経済大国ということでありましょうか。集め方の苦勞もあれば、使い方の苦勞もあり、もちろん使い方のほうが気楽ですが、結局国際交流のための基金を設けることになり、これで当学会の活動条件が一まわり拡大するわけであります。

これほどの大事業のあとは、一休みしたほうがよいのではないかと考えますが、創立三十余年ともなれば、日常的な活動もたいへんで、一休みどころではないようです。創立のころ、私は事務局の下働きをしていたことが

ありますが、当時とくらべれば、雲泥の差があります。会員は百人とか二百人とかいっていたのが、いまは九百人になんなんとし、いくつもの委員会ができ、研究会の企画、政治学年報の編集、文献リストの作成、選挙の管理、ニューズレターの発行、会員名簿の整理等々、いずれも規則や慣例がつかさなり、議事や記録のファイルは山積するありさまであります。それだけ、当学会の運営が構造化してきたということでしょう。

このさい文運隆祥を期して研究活動をさらに拡張すべきであるという意見があります。かつて研究会が年二回の時期もありました。それは、息ぎれがして年一回に変わったようにきいていますが、当学会も大きくなったのですから、年二回ということも考えられなくはありません。しかし他方、これ以上学会の仕事がふえてはかなわぬという意見もあります。われわれの学会活動は片手間仕事であって、効率がよいとはいえません。専属の事務局さえなく、二年毎に理事長と一緒に引越しするありさまであります。これ以上仕事がふえては、パンクするおそれがあります。もっともパンクするほどになったのは結構なことであって、そうなってこそ打開策も具体的に考えうるわけであります。いずれ理事会の方がたともよく相談して、できるだけ努力するつもりです。なお、各委員長、常務理事、監事、幹事は、別記のように依頼しました。会員諸氏のご協力をおねがいする次第であります。

学 会 ニ ュ ー ス

新執行部の陣容きまる

升味新理事長は、10月16日の理事会および総会において、次の二年間の学会運営の中心となる役員の陣容を、以下のように発表した。

また、川口監事の後任として山下重一会員が推薦され、総会の承認をえた。なお、常務理事には前回の総会で半沢孝麿会員があたることが、承認されている。

年報委員長	今井清一(1984年度年報)
	河合秀和(1985年度年報)
企画委員長	田口富久治(1983年度研究会)
	有賀弘(1984年度研究会)
文献委員長	橋本彰(1982年度文献)
	福井英雄(1983年度文献)
渉外委員長	武者小路公秀
選挙担当理事	増島宏
幹事	宮村治雄、御厨貴

1981年度決算承認される

6月26日の理事会において、川口・佐々木両監事より、1981年度の決算について収入および支出の監査をした結果、予算の執行が適正であったと認める旨報告があり承認された。なお、予算と決算の費目別内訳は別表のとおりである。(なお、予備費支出は JAPAN ANNUAL OF LAW AND POLITICS への原稿の翻訳料である。)

別途会計(1)名簿作成積立金

(収入)	
前年度より繰越し	108,202
本年度積立金	100,000
利息	2,381
(支出)	
名簿訂正表印刷代	79,200
差引残高	131,383

別途会計(2)IPSA関係積立金

(収入)	
前年度より繰越し	21,473
本年度積立金	20,000
利息	472
(支出)	
	0
差引残高	41,945

日本政治学会 1981年度決算表

摘 要		予 算	決 算
収 入	1. 前年度よりの繰越し	1,361,654	1,361,654
	2. 会 費 収 入	2,300,000	3,695,100
	3. 雑 収 入	50,000	30,291
	4. 年報特別基金返済	0	250,000
	収入合計	3,711,654	5,337,045
支 出	1. 研究会開催費	680,000	674,000
	研究会準備費	500,000	500,000
	報告者謝礼	180,000	174,000
	2. 委員会経費	265,000	265,000
	年報委員会	55,000	55,000
	企画委員会	85,000	85,000
	文献委員会	65,000	65,000
	渉外委員会	50,000	50,000
	選挙管理委員会	10,000	10,000
	3. 理事会経費	40,000	39,803
	4. 学会分担金(IPSA)	210,000	200,685
出	5. 事務局経費	480,000	475,500
	理事長通信費	20,000	20,000
	運営費	30,000	30,000
	人件費	180,000	180,000
	経常費	250,000	245,500
6. 名簿作成積立金	100,000	100,000	
7. IPSA関係積立金	20,000	20,000	
8. 選挙管理費	300,000	300,000	
9. 年報特別基金	300,000	300,000	
10. 会報発行費	230,000	230,000	
11. 予 備 費	1,086,654	207,700	
支出合計	3,711,654	2,625,688	
収 支 差 引		0	2,711,357

学 会 ニ ュ ー ス

IPSA東京ラウンド・テーブル決算、まとまる

国際ラウンド・テーブル政治研究集会組織委員会は、6月12日、組織委員会と常任委員会の合同会議を開き、2年半にわたる活動の第一次決算報告を承認した。この決算報告では、未だ未済部分をふくむものの相当額の剰余金が出る事が確実となったため、会員募金および学会からの積立金にほぼ相当する600万円を、日本政治学会IPSA基金を設立するため学会に寄付することに決定した。剰金は常任委員のうちの適任者を8月の第12回IPSA世界大会(リオ・デ・ジャネイロ)に派遣する費用にあてられることとされたが、出張可能な適任者がえられなかったため、結局、剰金も同基金に寄付された。なお組織委員会の川口・佐々木両監事の監査を受けて、10月17日の理事会に報告された組織委員会の最終決算報告の内容は右の通りである。

〔収 入〕

1. 日本政治学会借入金	1,000,000
2. 日本政治学会IPSA関係積立金	257,500
3. 日本政治学会IPSAラウンド・テーブル基金(会員募金)	5,745,000
4. 大学・研究所賛助金	570,000
5. 財団・協会等助成金	8,278,800
6. 一般募金	28,027,000
7. 会場収入	648,500
8. 雑収入	1,438,008
総 計	45,964,808

〔支 出〕

1. 会議準備費	4,537,856
2. 会議運営費	29,859,998
3. 会議事後処理費	2,153,071
4. 日本政治学会借入金返済	1,000,000
総 計	37,550,925

剰 余 金 8,413,883

1981年度の日本政治学会年報(年報委員長・内山秀夫)は、10月8日発刊された。内容は以下の通りである。

日本政治学会IPSA基金 創設される

理事会は6月26日、国際ラウンド・テーブル政治研究集会組織委員会から寄付を受けた600万円をもとに、日本政治学会IPSA基金を創設することに決定した。基金は、「原則として、その果実をもって運用し、日本政治学会がIPSA執行委員会に代表を派遣する際の旅費の一部または全額にあてる」ことになっている。なお、基金はその後、組織委員会の剰金241万3,883円の寄付をうけ、全額で841万3,883円に増額されている。

年報政治学1981

『現代国家の位相と理論』

(岩波書店刊、3,400円)刊行される

現代国家の位相と理論

I 国家の民主主義の現在	内山 秀夫
II 地方主義と国際政治	馬場 伸也
III 開発途上国家の位相と理論	長井 信一
IV アメリカ連邦主義の論理と現実	阿部 齊
V ドイツ国家学の現況と国家概念	新田 邦夫
VI 現代政治学と国家概念	藪野 祐三
VII 多元民主主義論と現代国家	曾根 泰教
VIII 西欧マルクス主義の国家論と政治学	加藤 哲郎
IX フランス地域政治の危機と分権改革	野地 孝一

文献リスト——1980年——

学会報告
日本政治学会年録

日本政治学会
文献委員会
日本政治学会
事務局

1982年度研究会 近畿大学で開催される

1982年度研究会は、10月16日・17日の両日、大阪・近畿大学において、約350名の会員の出席をえて開催された。また研究会第1日終了後の懇親会も、約170名の会員の参加の下に、喜多会場担当校理事の司会・景山近畿大学長の挨拶にはじまって、盛大に行なわれた。なお、研究会の議事日程でプログラムに変更あったのは、以下の通りである。

- 第1日 分科会C 司会 佐々木武、討論 有賀 弘
が入れかえ。また、討論 勝田吉
太郎が小野紀明に変更。
- 第2日 共通論題 報告 平田清明が中止、その代り
に補足報告中木康夫「1981年フ
ランスにおける大統領および議会
選挙」が行なわれた。

次回の研究会会場 早稲田大学に決まる

6月26日および10月17日の理事会で、1983年度の研究会は、10月8・9の両日、東京・早稲田大学で開かれることに決まった。会場校担当理事は、内田満理事があたりになっている。

総会・理事会の記録から

〔理事会〕 1982年6月26日 立教大学

○国際ラウンド・テーブル組織委員会の決算において、約921万円（未収金、未済金をふくむ）の剰余金見込みが報告され、組織委員会から、会員募金・学会積立金にほぼ相当する600万円を、日本政治学会IPSA基金（仮称）を設立するために日本政治学会に寄付する旨の申出があり、検討の結果、受諾することに決定した。なお、剰余金は、8月のIPSA第12回世界大会に常任委員を派遣する費用にあてるが、剰余金が出た場合は、このIPSA基金に加えるとの申出があった。

○IPSA第12回世界大会に日本政治学会代表として、

神島理事長、武者小路渉外委員長を派遣することが決定された。

〔理事会〕 1982年10月16日 近畿大学

○国際ラウンド・テーブル組織委員会の最終決算において、剰余金が841万3,884円になった旨報告があった。なお、IPSA第12回世界大会に常任委員の派遣者がなかったため、剰余金の全額が日本政治学会IPSA基金に積立てられたことが報告された。

○1982年度文献委員の氏名が以下のように発表された。

青木一能、石井陽一、川島弘三、小野秀之、黒川修司、小林良彰、渋谷 浩、曾根泰教、谷藤悦史、寺崎 修、福岡政行、堀江 堪（委員長）

〔総会〕 1982年10月16日 近畿大学

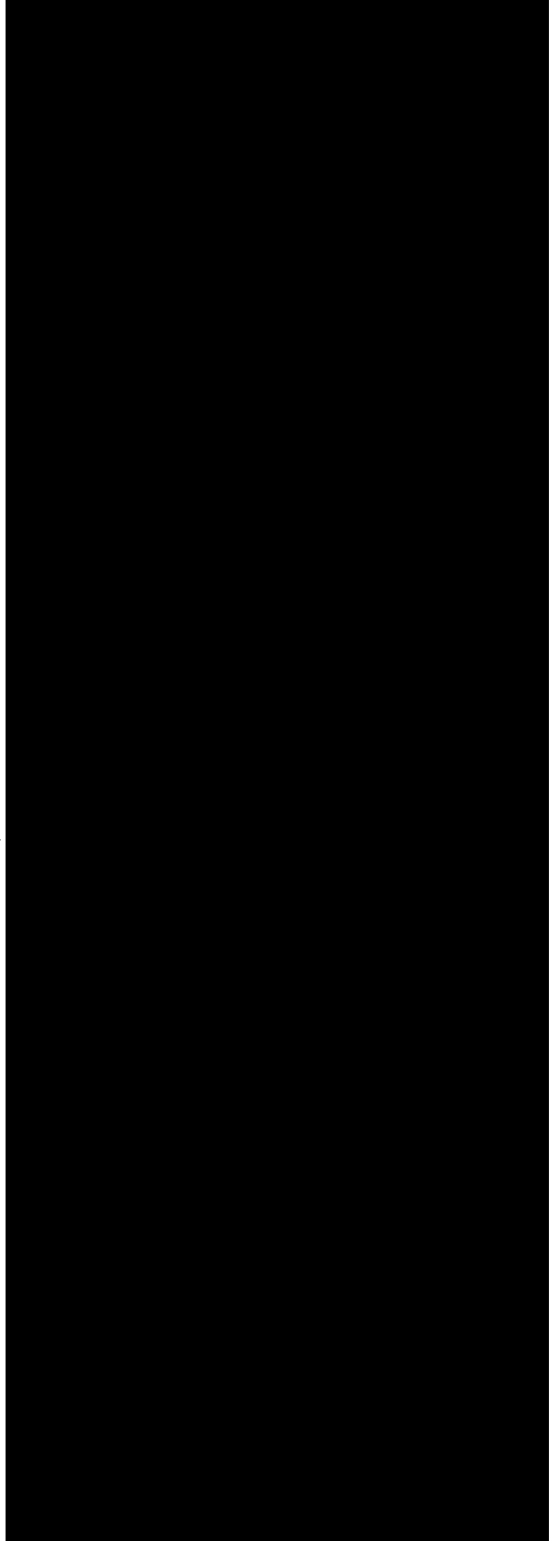
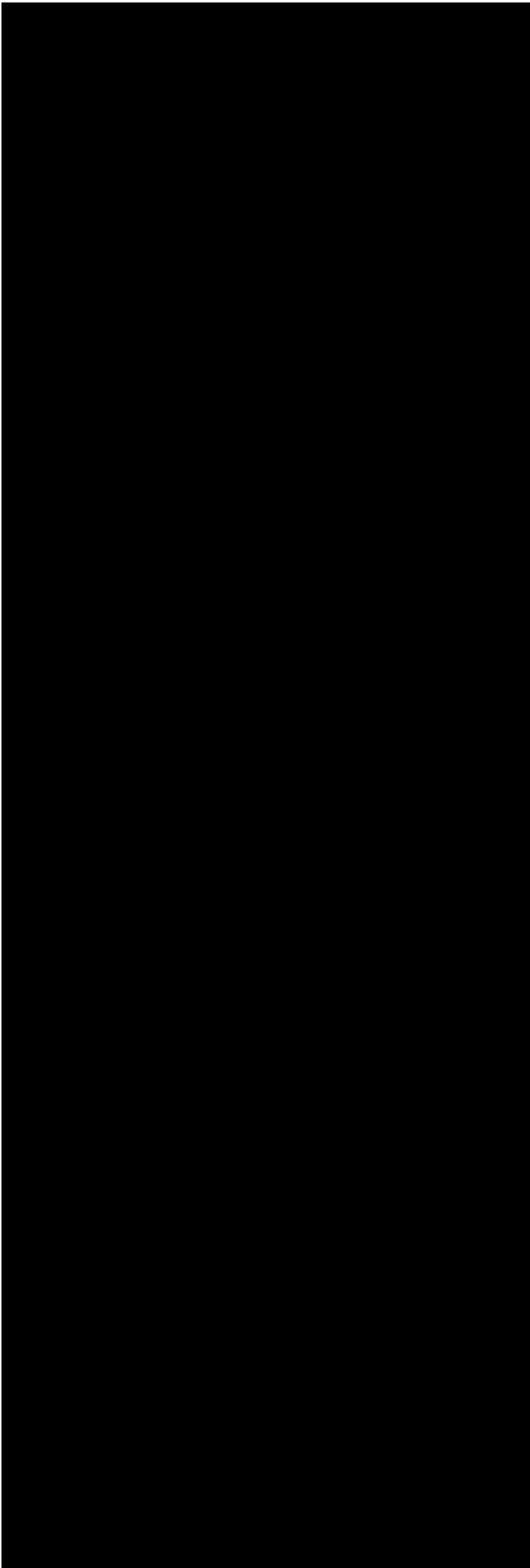
○神島理事長より会務報告があり、IPSA東京ラウンド・テーブルが無事終了したこと、日本政治学会IPSA基金を創設したこと、1981年度年報が刊行されたことなどが報告された。

○武者小路渉外委員長より、IPSA執行委員会および第12回世界大会について報告があった。なお、武者小路渉外委員長が、IPSA新執行部の下で引きつづき副会長に選ばれたことが報告された。

○佐々木監事より、1981年度決算について監査した結果予算の執行が適正であったと認める旨、報告された。

○升味新理事長より委員長などの人事について報告があった。また、川口浩監事の後任として山下重一会員を推したい旨提案あり、承認された。

会 員 異 動



事務局移転のお知らせ

10月末日をもって、事務局が立教大学から都立大学へ移転しました。今後の御連絡は、下記の住所の新事務局（常務理事 半沢孝麿、幹事 宮村治雄、御厨 貴）宛てにおねがいします。

1982年10月30日

編集 日本政治学会会報編集委員会
（代表 高 島 通 敏）
発行 日本政治学会事務局
〒152 東京都目黒区八雲1-1-1
東京都立大学法学部研究室内
TEL 03(717)0111
内線 613
郵便振替番号 東京0-84250
加入者名 日本政治学会